

ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p01

	◆□◆僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援甘えんぼセックス◆□◆ ▼パート1…押しかけ神様の応援
	●SE：片付けをしている物音 六畳一間の下宿。畳の上は散らかり放題。 その部屋を掃除しているサヤ、一区切りつけて満足げ。
サヤ	◆位置・正面…サヤ視点。
サヤ	saya_b04_p01_001 「—よしっ、こんなもんじゃな。ふうー、まだまだ散らかってるが…そろそろ帰ってくるじゃろう」
	●SE：足音近づいてくる
サヤ	saya_b04_p01_002 「おっ おおーっ」
	●SE：ドア開く＆閉じる
	◆補足…主人公視点に変更。 主人公、不在のあいだに片付いた部屋を見て驚く。
	◆位置・背面…部屋の中央で驚く主人公の後ろから登場。
サヤ	saya_b04_p01_003 「帰ってきたようじゃな。ふふ、驚いておる驚いておる…居室（きょしつ）が片付いて驚いたじやろうっ。」
サヤ	saya_b04_p01_004 「おぬし、掃きだめの如く部屋で寝起きするのは改めるがよい。清浄な心身を保つためにも、適度な清掃とこまめな整理整頓が必要じゃ」
	◆位置・右隣…主人公の横をすり抜けながら正面へ。
サヤ	saya_b04_p01_005 「ん…なんじゃその顔は。まるで化け物にでも会（お）うたような面（つら）じゃのう？ — おばけ？ 妖怪？ さようなケチ臭い連中と一緒にするでない」

sayab04_p01_006
「――くしししっ。その目で見るのは初めてか？
そうじゃろう……」

◆位置・正面…主人公の正面。

saya_b04_p01_007
「わしはサヤ！ おぬしの本家で祀られておる真神
（まがみ）の眷属じゃ。…む、今なんと申した！？
わしのどこが狐に見える！？ わしは狼！ 大い
なる神、狼じゃ。信心不足を改めよ。まったく！」

saya_b04_p01_008
「……まあ、無理もなからうな。おぬし、長らくわし
との縁（えにし）が細っておったからのう」

saya_b04_p01_009
「わしも、もっと早（はや）う来るべきじゃった。な
んとなく虫の知らせで様子を見に来たのじゃが…部
屋の有り様やおぬしの挙動を見るに、不遇が募って
おるようじゃ」

saya_b04_p01_010
「顔色もよくないのう…話を聞かせてくれんか？」

話を聞くサヤ。適度に相槌。

saya_b04_p01_011
「んー？ ふむ、ふむ……うん、うん……なるほど…
…そうか…」

saya_b04_p01_012
「『しゅうかつ』なる責務に押しつぶされ、悲観して
おるのじゃな。なあに、おぬしは悪くない。今日ま
でたくさん頑張ってきた、その努力はわしにはよー
く分かる」

saya_b04_p01_013
「よしよし、故郷を離れ家族も遠く、一人で心細かつ
たろうになあ…」

サヤ	<p>saya_b04_p01_014</p> <p>「よいか、おぬしとわしは家族も同然。いや、それよりももっと深い縁（えにし）に結（ゆ）われておる。おぬしを守護し助けることは、わしの役割…遠い祖先からの約束じゃ」</p> <p>saya_b04_p01_015</p> <p>「遠慮することはない。わしの胸へ来るがよい」</p> <p>◆補足…主人公がなかなか来ないので、強調して促す</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_016</p> <p>「…どうした？ さあ、来ーるーがーよーいー。…遠慮することはないぞ！」</p> <p>主人公、サヤに飛びつく。</p> <p>◆位置・正面密着…至近距離。甘いささやき声</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_017</p> <p>「おお♪ そうじゃそうじゃ、素直に甘えてよいのじゃぞ。わしからすれば、おぬしなどまだ『ややこ』同然。愛しくてならん、大事な子じゃ。わしが護るべき大事な大事なややこじゃ…」</p> <p>saya_b04_p01_018</p> <p>「よしよし、よくがんばったのう。よし、よし……」</p> <p>saya_b04_p01_019</p> <p>「…おぬしさえよければ、しばしの間、わしもこの家で寝起きを共にしよう。飯を炊き、居（きよ）を清め、おぬしの身の世話を担い心を支える。どうじゃ？」</p> <p>◆位置・右隣遠…ちよつと離れて部屋を見渡します</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_020</p> <p>「そのつもりで、手始めに掃除を試みたが…まだ途中でな…」</p> <p>◆演技…本を拾うまでは、しかたのないやつじやのう、という、からかい気味の柔らかな口調</p>

サヤ	<p>saya_b04_p01_021</p> <p>「んー？ ……おぬし、出っっぱなしの癖があるようじゃの。この書物も、読み終わった都度、棚に戻せば散らからんぞ。ほれ…ん…んん！？」</p> <p>エロ本を見てしまうサヤ。慌てる主人公。</p> <p>saya_b04_p01_022</p> <p>「なっ…なんじゃこれは！？ え、ええ、えっちなやつではないかっ！？」</p> <p>照れ隠しで怒るサヤだが、興味津々。台詞の合間に本をめくる音など。</p> <p>◆演技…照れ隠しの弱めのお怒り</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_023</p> <p>「このような本、ほっぽりだす奴がおるか！ いや、年頃のおのこの部屋じゃ、かような本を持つこと自体は咎めぬが……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_024</p> <p>「それにしても…ほー……当代の笑い絵とは、このように描かれておるのか…ふむふむ……む！？ ふ、ふわあ…なんじゃこの…はれんちな格好は…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_025</p> <p>「し、しかもこのオナゴ…わしとそっくりな耳と尻尾までついておるんじゃが…！？」</p> <p>段々好奇心をむきだし＆「機嫌に」。</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_026</p> <p>「おぬし…これを用いてセンサーを…？ そ、そうか…ふむ、ふむ…。ふうむ…」</p>
	<p>●SE：本を閉じる。</p>
	<p>◆位置・正面…主人公の前まで来て真剣な問い</p>
	<p>◆演技…真剣</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_027</p> <p>「……のう。…わしとこういうことをしたら、その…おぬしは、元気を取り戻してくれるんじやろうか…っ」</p>

	<p>主人公戸惑う（「そんなことまで頼んでいいの……？」）</p> <p>◆演技…朗らか</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_028 「おぬしが元気で健やかでおるのが、わしの願いじゃ。そのためなら、わしはおぬしになんでもしよう♪」</p>
	<p>●SE:また本をばらばらめくる</p>
	<p>◆演技…面白そうに</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_029 「…ふふ、それにしても見事な笑い絵じゃ。おぬし、見る目があるのお。このふさふさの耳も、もふもふの尻尾も、わしの自慢じゃ♪」</p> <p>まだ遠慮がある主人公だが、股間は勃起している。 （主人公…「や、やっぱりこんなのだめだって…」）</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_030 「んー？　口ではそのように申すが、身体のほうは求めておるようじゃが？　ふふふ…あったかいのう。大きく膨らませて、愛（う）いやつじやのう♪」</p>
	<p>◆位置…左隣密着…耳元で囁き</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_031 「さあ、力を抜いてわしに身を任せよ……」</p>
	<p>◆位置…正面下…ベッドに腰掛けさせて主人公のズボンを脱がせて下半身を露出させる</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_032 「ほれ、そこに座ったら下を脱いで魔羅（まら）を… …、ん、その本の通りに申すと…『おちんぽじゃな』」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_033 「お、くししっ、たくましいおちんぽしおってかに♪　さっきは『ややこ』と申したが…こは立派に『おのこ』じやのう♪」</p>

サヤ

saya_b04_p01_034
「熱くて、大きくて…かっちかちに固い…うむ、かっ
こいいぞ。おのこたる者、そうでなくてはな。よい
おちんぼじゃ。…心配ないぞ、これなら丈夫なやや
こを孕ませるじやろう。…さて——」

手コキ開始。

◆位置・右隣密着…主人公に抱きつき、耳元で甘く囁きながら手コキ。

サヤ

saya_b04_p01_035
「よしよし、よしよし…気持ちよいか…？ まだ緊張
して、強張っておるようじゃな。力を抜いて、快
(こころよ)い感覚に集中するのじゃ…ほれ…よし
よし…よしよし…ふふ…」

サヤ

saya_b04_p01_036
「じょうずじゃ、その調子じゃ。そのままわしに身を
委ねて、きもちよーくなっておればよい♪ ……お
ぬしは良い子じゃ、かわいいのう……よしよし、な
でなで…」

サヤ

saya_b04_p01_037
「ふふふ、じしじし…ん…っ、はちきれんばかりに張
り詰めておる…これを夜ごとひとりで、持て余して
おったろうに…もっと早く来てやるべきじゃった
のう…」

サヤ

saya_b04_p01_038
「ほれ、もっと甘えてよいぞ？ わしにぎゅーってつ
かまって、いっぱい気持ちよくなっておれ♪」

サヤ

saya_b04_p01_039
「わしの手もあったまってきた…どうじゃ…？ なで
なで、よしよし…ふふふ、おぬし、案外かわゆく喘
ぐのう。なにやら、いけないことをしている気分
じゃ……」

sayab04_p01_040
「はあ、はあ…わしまで身の内が熱くなってきた…
はあ、はあ…ん…」

saya_b04_p01_041
「わしの手では包み切れんのう…よしよし…ん…
はあ、びくびく震えておる…ここがよいのか？
でっばりのすぐ下の溝を、きゅっとな…♪」

saya_b04_p01_042
「鈴口のよだれもこうして、ぬりぬり…♪ ふふ、た
まらんようじゃのう。ちゆくちゆく響いてきたぞ…
♪ んっ、これ…腰が跳ねて…暴れ馬じゃのう。元
気でよいこじゃ…よしよし、よしよし…」

saya_b04_p01_043
「わしの小さな指先は、おぬしの鈴口にぴったりじゃ
のう。尿道口に、こうしてほんのちよっと差し込む
と…ほじほじ…♪ つふふ…♪ たまらんか…？」

saya_b04_p01_044
「よだれが溢れてくるのう…くししっ、おぬしがそう
やって腰を震わせて顔を蕩かせるのは愉快じゃのお
…よしよし、ごしごししてちゆくちゆくしてやるか
らの…ん」

saya_b04_p01_045
「んー？ もう無理となー？ それはどういう意味な
のじゃ？ ふふ、気持ちよくて出てしまいたいそうなの
か？ それはなによりじゃ♪」

saya_b04_p01_046
「よいぞ、存分に出すがよい。ほら、ほら、ほら…ん
し」し、ししし…♪ んっ、あ…っ♪」

sayab04_p01_047
「その顔、もうたまらんのじゃな？ 射精したがって、陰囊がびくびく震えておるな。よいよい、すべて出すがよい♪」

sayab04_p01_048
「おぬしが氣をやるどころを、わしがしっかり見ていてやろう…さあ出せ、出すがよい…んっ、んっ…ほれ、ほれ♪」

主人公、射精する。

sayab04_p01_049
「おお…♪ んうっ…あ…ふう…すごい勢いじゃ…いっぱい出たのう…！ こんなに濃い子種を注がれたら、すぐにも孕んでしまいそうじゃの…♪」

sayab04_p01_050
「よしよし、頑張ったのう。気持ちよくなって、えらかったのう。ふふ、いいこじゃ、いいこ…」

sayab04_p01_051
「ご褒美に、わしが綺麗にしてやろう。なにを恥ずかしがっておる？ わしはおぬしの世話をするために来たのじゃからな」

◆位置・正面下…足の間に移動し、ペニスについた精液を舐め取る。

sayab04_p01_052
「この白くて濃い樹液のような精液も…ペロッ、ほら…わしが舐めて綺麗にするぞ…ペロっ。ペロペロ…」

sayab04_p01_053
「んんっ、舌にからみつくしつこい味じゃ…近ごろは相当溜め込んでおったのじゃな…かわいそうに…ちゅ、ペろ、ペろペろ…」

サヤ

saya_b04_p01_054
「ちゅ…ちゅっ。ふふ…そうびくびくするな、力を抜いておれ。ちゅっ、ちゅ…れろっ…れろおおっ…ん…べたべたじゃのお…ちゅっ、ぺろぺろっ、ぺろ…ちゅ、ぺろっ…ぺろぺろ、れろおおっ…」

サヤ

saya_b04_p01_055
「れろっ、れろお…下生えのなかにも、沁み込んでおるのお…ちゅっ、ちゅっ、ちゅぱっ、ちゅ…ちゅっ、ちゅっ…!」

サヤ

saya_b04_p01_056
「んっ、ふう…ちゅ、はふう…、はあはあ…ちゅ、れろおっ…れろれろ、ぺろっ…ちゅっ、ぺろっ…ん…れろおおっ…ちゅ、ちゅちゅちゅっ…」

サヤ

saya_b04_p01_057
「おお♪ カリ首の溝の奥に…ちゅっ、ちゅくっ、レロッ…こんなに垢をため込んで…♪ レロッ、ちゅくっ、ちゅくちゅくっ…んっ…んんっ、雄の匂いがしてきたのお…はふ、はあ…はあ…んっ、ちゅ…」

サヤ

saya_b04_p01_058
「ふふ…おぬし…どうしたのじゃ？ そんなにびくびく震えて…身体中に力を入れて…わしの舌が、そんなに気持ちいいののお？」

サヤ

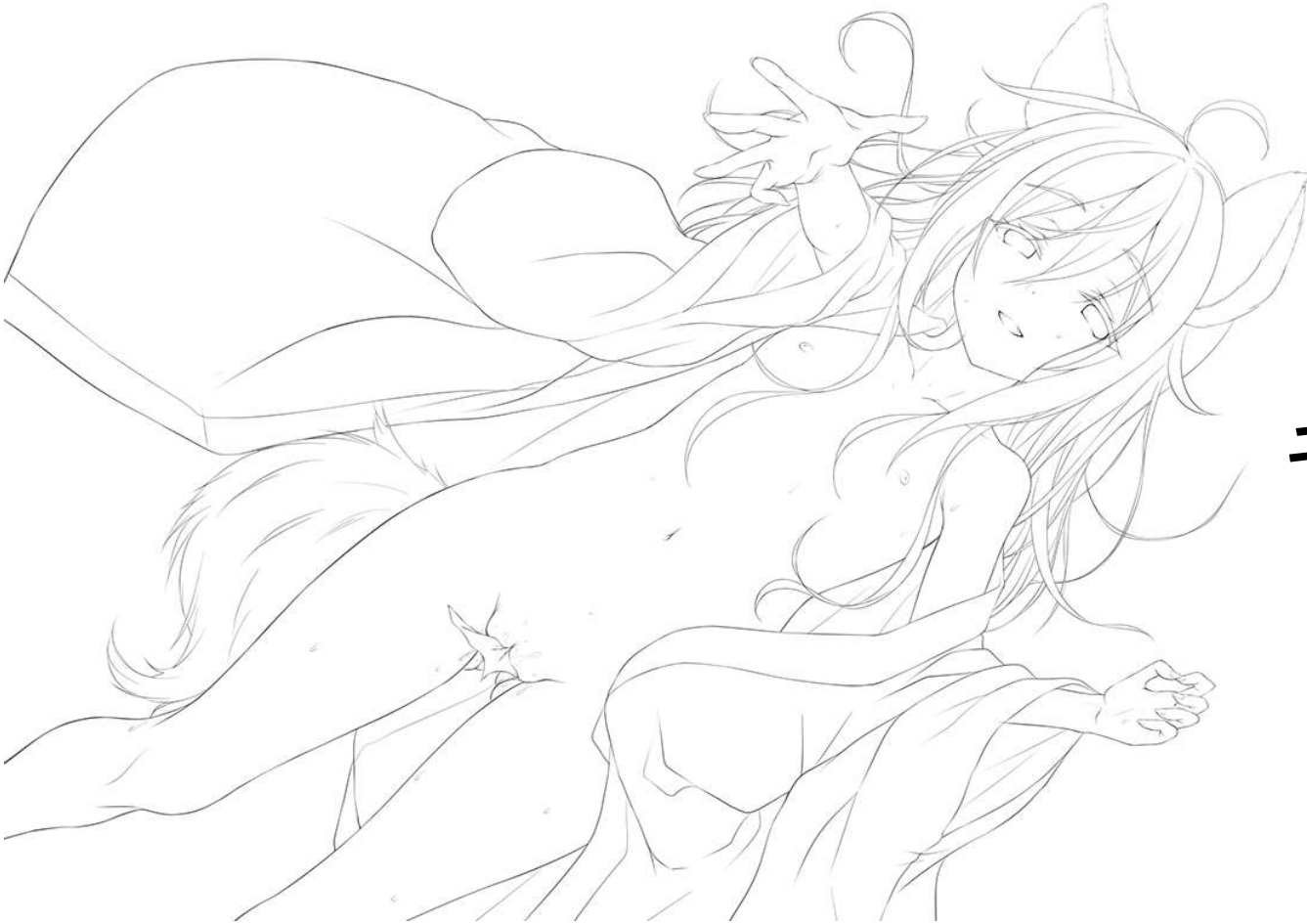
saya_b04_p01_059
「…」も…チュッ、まだ子種でぱんぱんに膨れておるようじゃ…ちゅっ、ちゅ…はむっ…」

サヤ

saya_b04_p01_060
「…申しただろう、遠慮などせずともよい…いっぱい気持ちよくなって、元気になってほしいのじゃ…」

サヤ	<p>saya_b04_p01_061</p> <p>「今、わしにできるのは…ちゅっ、ちゅぱ…」うやつておぬしを慰めることだけじゃ…♪　ちゅ、ちゅ…はむうっ！」</p> <p>フエラ開始。</p> <p>◆位置・正面下…位置は変わらず、足の間</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_062</p> <p>「んっ、おっきいのお…わしのお口がいっぱいになってしまう…はむっ、んっ…じゅちゅっ、ちゅ…ふう…っ、んっ…はふ、はあ、はあ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_063</p> <p>「あむっ…んむっ、ちゅむっ…ちゅ、ちゅう…ちゅうううううっ…じゅるっ、じゅずずっ…ちゅっ、じゅるるるるるっ…ふっ、はふっ…ふっ、ちゅ…っ、ちゅっ、ちゅ…ちゅちゅっ、ちゅっ…！」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_064</p> <p>「んふうっ…ふ…ふふふ、ちゅっ…びくびくしておるのお…さきっぽからまた濃ゆいつゆが溢れてきたぞ…♪　ちゅっ、ちゅううっ、ちゅぶっ…！」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_065</p> <p>「はあ、はあ…わしの口をおまんこだと思って、びゅーびゅー出して構わんからの♪　ちゅっ、ちゅっ、ちゅぶっ、ちゅばっ…ぢゅるるるるるるるっ！　ちゅ、ちゅぶう…ぢゅるるるるるっ…！」</p>
サヤ	<p>◆補足…射精する主人公</p> <p>saya_b04_p01_066</p> <p>「んっ！？　んんんっ…んっ、んーっ！　ふう、ふっ、ちゅっ、ちゅっ…ごくっ…ちゅ、ごくん…ちゅちゅっ…はふっ、れろっ…れろおっ…ちゅ…」</p>

サヤ	<p>saya_b04_p01_067</p> <p>「はあっ、はあっ、はあっ…濃ゆい…♪ んくっ、ちゅっ…ちゅうっ…ふう、ふう…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_068</p> <p>「おぬし、よくまあこれだけの固い精液を蓄えておったのう…いっぱい出せて、えらかったぞ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_069</p> <p>「わしの舌でいっぱい感じてくれて、嬉しいのお、愛しいのお…ふふ…♪」</p>
	<p>サヤに礼を言う主人公。</p>
サヤ	<p>◆位置・正面…立ち上がるサヤ。主人公と目線の高さが合う。</p> <p>saya_b04_p01_070</p> <p>「礼など申すでない、わしとおぬしの仲ではないか♪ うむうむ、いつでも頼ってよいぞ。これからわたしは、おぬしと共に暮らすのじゃからのっ♪」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p01_071</p> <p>「いーっぱい甘えて良いのじゃからなっ♪ うむっ、よろしく頼むのじゃ♪」</p>
	<p>▼パート1終了</p>



ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p02

								◆□◆僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援甘えんぼセックス◆□◆
								▼パート2…お祈りの儀式えっち
								●SE：料理する音
							◆位置・右遠…少し離れた台所で料理するサヤ	
サヤ							saya_b04_p02_001 「ふんふんふーん、ふんふんふーん♪ んん♪ できたようじゃのお♪ おぬしよ、夕餉（ゆうげ）の支度が整った！ 我ながらよい出来じゃ！」	
サヤ							saya_b04_p02_002 「わしは火難守護も司る真神じゃからの、炊事の腕も確かなのじゃ。…なんじゃ、前にも話したか？ んゝ、永く生きておると忘れっぽくなっていかんのう。くししっ、容赦してくれ」	
							サヤ、主人公の膝の上に座る。	
							◆位置・正面下…主人公の膝の上	
サヤ							saya_b04_p02_003 「さて、おぬしよ。…そうじゃ、ここがわしの定位置じゃ。おぬしの膝の上は居心地がよいからのおゝ。では！ いただきます、じゃ♪」	
サヤ							saya_b04_p02_004 「ふーふー、ほれ、餡掛けちゃーはんは熱いからの、口の中を火傷しないように…ふーふー、ふーふー…わしがしっかりふーふーしてやろう…それ、あーん」	
サヤ							saya_b04_p02_005 「なにを照れておる？ あーんせい、あーん」	
							主人公、あーんする。サヤ、上機嫌。	
サヤ							saya_b04_p02_006 「…うむっ♪ うまいか？ そおかそーか、何よりじゃ♪ …なんじゃ、すーぐ顔を曇らせよって…また『しゅうかつ』か？」	

サヤ	<p>saya_b04_p02_007</p> <p>「んんー、どいつもこいつも見る目のない連中じゃのお、左様な下らん輩に奉公する必要はないっ。おぬしの努力は、このサヤがよく分かっておる。なに、じきに果報が届くであろう」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p02_008</p> <p>「そうじゃ！ おぬしの開運を祈願し、ひとつ儀式を執り行おうかの。なに、手順は簡単じゃ」</p>
	●SE：衣擦れ
	◆位置・正面…立ち上がるサヤ
サヤ	<p>saya_b04_p02_009</p> <p>「まず、わしはこのらぶりいな割烹着を脱いで…よしよっ、かように薄衣を身に纏い…次に必要となるのは、これじゃ！」</p> <p>サヤ、酒を口に含み、主人公に口移しで与える。</p>
	●SE：酒瓶を開ける音
	◆位置・正面至近…主人公の腰に對面で座り直し、顔を近づけて口移し。しばらく近づけたまま
サヤ	<p>saya_b04_p02_010</p> <p>「聖なる神酒を…んくっ、ん…ほおやって（こうやって）、ほぬしに（おぬしに）…んっ、ちゅっ…ちゅるっ、ちゅろろっ…んくっ…ふう…飲んだかの…っ」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p02_011</p> <p>「くしししっ、おぬし、酒のほうはまだまだのようじゃな。喉が焼けるか？ それでよいよい。身体がぽかぽかするじゃろっ？」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p02_012</p> <p>「それ、もう一杯…んくっ、んっ…ちゅぷっ、ちゅずっ…ちゅろろっ、ちゅぞっ…んっ、んふっ、ちゅぷっ…！ よしよし、じょうずに飲めたようじゃな♪」</p>

主人公反撃。サヤの舌を吸い、唾液を飲ませる。

サヤ

saya_b04_p02_013

「んぷっ！？ んふうううっ、ちゆるっ、ちゅっ、
んう、ちゅっ、れろおっ…んくっ、んっ、これ…今
飲ませてるのは、わしのほうじゃ…んっ、ん…ン
ッ…」くっ…ふあ…♪」

サヤ

saya_b04_p02_014

「はあ、はあっ…おぬしの唾液…酒の味がするのお…
♪ ちゅっ、れろおっ、ちゅっ、んふっ、ちゅぶっ
…んっ、ん…ふふ…♪」

サヤ

saya_b04_p02_015

「口移しで、こーふんしたのかのお？ おぬしのおち
んぽ、元気になっておるぞ♪ わしは元気なおぬし
が大好きじゃ…」

サヤ

saya_b04_p02_016

「よしよし、可愛がってやろうかのお…よしよし、よ
しよし…んっ、これこれ…おぬしの手が、わしの衣
を開いておるが…これはいかなるいたずらじゃ？」

サヤ

saya_b04_p02_017

「んっ、あう…あっ…んんっ…はあ、はあ…あっ、
んっ…おぬしの指…一人前におんなを喜ばせる妙技
を…っ、んっ…いつのまにそれほどの助兵衛になっ
たんじゃ…んんっ、んあっ…はあ、はあっ……」

サヤ

saya_b04_p02_018

「わしも負けてはおらんぞ…ほれ、ほれ♪ こうやっ
て…」ごしされると、たまらんじやろう…？ ごし
ごし、よしよし…んっ、んあ…さきっぽから、淫ら
なよだれが溢れてきたようじゃ…♪ んっ、んあ
…」

◆補足…ディープキス、唾液交換

サヤ	<p>saya_b04_p02_019</p> <p>「ふふ…こうやって気を交え、精を交わすことで、わしの神力をおぬしに注ぎ、陰の気を祓うのじゃ…ちゅ、ちゅ…もつと、舌を…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p02_020</p> <p>「んっ、はふ…ちゅう、ちゆる…はあ、はあ…おぬしの唾液は旨いのお…もつとお…じゆるっ、じゅっ…んくっ、んちゅ、ちゅっ…はあ、はふう…んっ、んっ、じゆるるるっ…んふううっ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p02_021</p> <p>「んんっ…はあ…わしのおそこも、とろけてきた…♪じんじん、熱く疼いておる…おぬしの指は舌のように動くのお…くすぐられて、ほじくられて、腰も砕けそうじゃ…ん、んあ、はあっ…はあ、んっ…」</p>
サヤ	<p>◆位置・正面…顔を離して立ち上がり、布団へ向かうサヤ</p> <p>saya_b04_p02_022</p> <p>「聞（ねや）へ来（こ）よ、おぬしよ…ふふ、もう堪（こ）ら）えがきかぬ様子じゃの…遠慮するでないぞ？ おぬしの好きなように貪るがよい…」</p>
	◆補足…ベッドへと移動します。同じ室内です。
	◆補足…布団の上に横たわるサヤ。
	●SE…布団に横たわる
	◆位置・正面下…正常位、横たわったサヤの足の間に入る主人公。
サヤ	<p>saya_b04_p02_023</p> <p>「さあ、儀式の仕上げじゃ…わしのおまんこに…おぬしのおちんぽ、いーっぱい、ずこ、ずこ、するのじゃ」</p> <p>「ずぼずぼ、ずこずこして、たっくさん、気持ちようになってくれ♪」</p> <p>挿入する主人公</p>

サヤ saya_b04_p02_024
「ンッ…あっ、ああ…入った、ああっ…♪ んんっ…
んっ…はあっ、くふっ…相も変わらず、立派なおち
んぼじゃのお…んっ、く…はあ、はあっ…んんっ…
あうっ…!」

サヤ saya_b04_p02_025
「この身が童子（どうじ）同然であるのが惜しいが…
こうして窮屈な思いをするのも…おぬしを強く感じ
られて、悪くないのお…んっ…んっ、あ…」

サヤ saya_b04_p02_026
「—ふふふ…じょうずじゃ、その調子で、奥まで—
—んっ、あッ…んううっ…! はあ、はあ…」

◆補足：手を繋ぎ、ピストンを早める主人公

◆位置・正面近：正常位のまま手をとって腰をかがめて、目の前まで顔を近づける主人公。

サヤ saya_b04_p02_027
「おぬしよ…手を…。そうじゃ、ぎゅうっと握ってい
て…んっ、あ…きもちいい…はあ、はあっ…はあ、
はあっ…ンッ…!」

サヤ saya_b04_p02_028
「あっ、あっ…あんっ! はっ、はあ、はあっ…
んっ、あうっ! ふうっ、うう…ンあっ…!
ふう、ああ…雄々しい動きが、奥まで響いてっ…」

サヤ saya_b04_p02_029
「んうっ、あっ…ふううんっ、んやあっ…はあ、
はあっ…」

サヤ saya_b04_p02_030
「あっ、あんっ! あんっ! んああっ! 奥、
にっ! わしのおっ、おくう! ずこずこっ、届い
てっ…!」

sayab04_p02_031
「遅いおちんぽが、子宮に接吻してるっ♪ あっ、んああっ！ ひゃうあっ、ふうんっ！ はあ、はあっ、はあっ、はあっ……！」

sayab04_p02_032
「奥届くたび…頭のなか…ばちばち、火花が散って… あっ、んっ…あっ、あっ…♪ きもちいいぞ…おぬしのおちんぽ、大好き…♪」

saya_b04_p02_033
「んん？ もう、イキたい…？ よいぞ、わしの奥に たっぷり注いでくれるならな…♪」

saya_b04_p02_034
「ほれ…おまんこもおぬしに縋りついておる…んっ、あ…そうじゃ、奥に入れたまま、もっとずんずんしてほしい…」

saya_b04_p02_035
「んっ、あっ…あっ、あっ…深いところで、ずんずん、されるとおっ…んふやあっ、きもちよくて、たまらないの……んあっ、ふやううっ、ひゃうんっ！ はあ、はあっ、はあ、はあっ……」

saya_b04_p02_036
「もっ…もっ…もっ…とじゃ、もっ…とっ…」し…し…し…しして…おちんぽ気持ちよくなって…」

saya_b04_p02_037
「ほれ、ほれ…っ、おまんこぎゅーって、おぬしを締め付けてしまう…んんっ…はあはあ、はあっはあっ…ふわああ…」

saya_b04_p02_038
「お腹の奥ほじほじされてる…っ♪ 愛液かきだされてるっ…♪ おぬしの精液いっぱい受け止める準備してるっ…♪ あううんっ…」

sayab04_p02_039

「はあ、はあ、はあっ…きて、きてえっ…おまんこに、精液びゅーびゅーいっぱいしてえ！」

◆位置・正面至近距離..キス距離。

sayab04_p02_040

「ちゅっ、んっ…んふっ…！ あふっ、ああっ…んふうっ…ちゅっ、口吸われながらイクの好き…」

sayab04_p02_041

「イクのじゃあ、いく、イクイクイクっ……ちゅふっ、んっ、ちゅっ、ちゅっ……！んっ、ちゅっ……！ちゅっ……」

◆補足…キスしながら射精する主人公

saya_b04_p02_042

「んぶううううううううううううううううううううううう！
ちゅっ、ちゅううつ、ちゆふっ…んっ、ふうっ…
ふうっ、ふうっ、ふーっ、ふ…」

「ちゅ、れろっ、ちゅ…んん…いっぱい精液、来たの
じゃあ…熱くて、びゅーびゅーって、奥に注がれて
る…♪ はあ、はあ…」

◆位置・正面近…口を離して顔を少し離す主人公。

「はーっ、はあっ、はあ……はあっ……はあ……。わ
しも、いっぱい気をやってしまったのじゃ……はあ、
はあ……んうう……はあ……しあわせじゃのお……ふう……
……」

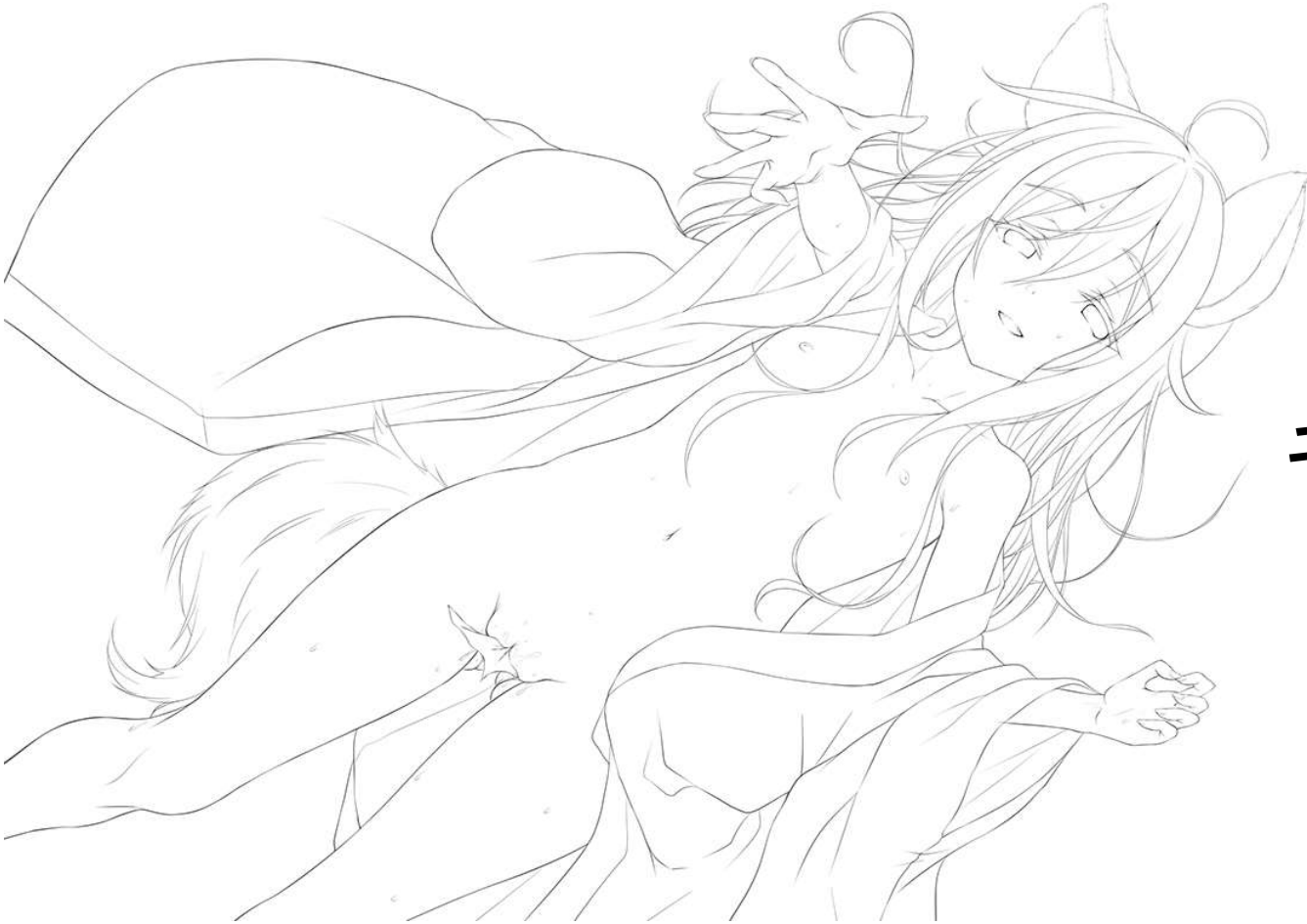
「——これできっと、おぬしにも幸福が訪れるはず……
大丈夫じゃ！　じゃがのお……」

サヤ

saya_b04_p02_046

「お百度参り、と申すじやろう？ 繰り返すことで力は増すのじゃ。ゆえに、おぬしよ……もっと、いっぱい、えっちしようぞ？ ふふふ……まだまだ夜はこれからじゃ〜♪」

▼パート2終了



ケモロリ神様
収録台本

キャラクター：サヤ

ファイル：b04_p03

◆□◆僕を守護してくれるケモロリ神様と抱擁応援甘えんぼセックス◆□◆
▼パート3…お祝いの告白種付けえっち

◆補足…主人公の部屋。座卓にご馳走。座布団を並べて座っている二人。距離は隣り合っている普通の会話。

無事に就職先が決まり、主人公をお祝いするサヤ。感極まっている。

●SE…鍋がグツグツ煮える音。

◆位置・右隣…主人公の隣に座るサヤ。別々の座布団に座って普通の距離。

サヤ

saya_b04_p03_001
「ついに…この日が来たのお…グスッ…おぬし、よおがんばった、よおがんばったのう…！！！」

サヤ

saya_b04_p03_002
「今宵は宴じゃっ！ おぬしはもう無い内定のシューカツローニンではない。立派な奉公先に恵まれたモノノフじゃっ！」

サヤ

saya_b04_p03_003
「今日まで見守ってきたわしとしても感慨深いぞ…グス、…な、泣いておらんっ…うう…よかったのお、よかったのお」

サヤ

saya_b04_p03_004
「なに…？ 改まってわしに話がある…？ なにをそう畏まることがあるか。おぬしとわしの仲ではないか。…む…わ、わかった。だまって話を聞こうではないか」

サヤ

saya_b04_p03_005
「なっ…なにを申すのじゃ…！？ わしを好きだと申すのか…！？ おぬしが…！？ ま、『マシな男になるまで告白を控えていた』じゃと…！？」

主人公「やっぱりダメか…神様と人間じゃな…」

サヤ	<p>saya_b04_p03_006</p> <p>「ばかものっ…おぬしは出会ったときからまともなおのこじゃ！ わしも…わしのほうこそ…出会ったときの一目ぼれ、じゃ…おぬしと一緒にじゃな、くしっ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_007</p> <p>「じゃが…あの日からおぬしと暮らして…日に日に好きになっていったのじゃ…。頑張り屋、かと思えば危なっかしいところ。目を離せない、かと思えば頼もしくなることも…くしっ、人の成長は早いのか…。」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_008</p> <p>「まことに…今日までよう頑張った。試練を乗り越えたおぬしなら、なんにでもなれる。そう——」</p>
	<p>◆位置・右隣耳元…顔をぐっと寄せて、耳元で囁き</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_009</p> <p>「——わしの伴侶にもな。…末永く愛してくれるんじゃないろうな？ おぬしよ」</p>
	<p>主人公、歓喜。興奮し、サヤに抱き着きディープキス。</p>
	<p>●SE：抱きつき物音</p>
	<p>◆位置・正面至近…キス距離</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_010</p> <p>「んぷっ！ んっ、ちゅ…ふ、ははっ、これこれ…子犬のようにじゃれつくでない、んっ、ちゅっ…ふあ…そうがつつくな…んあっ！ ちゅう、ちゅふっ…んっ…はあ…あう、はあ…唇が、熱い…ぽかぽかじゃ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_011</p> <p>「くしっ…興奮しておるようじゃのお…ちゅ、ちゅ…んっ、れちゅっ…ん、ふあ…あっ、んっ…んんっ…んりゅ、んんう、ちゅりゅっ、ちゅっ、ぶあっ…。」</p>

サヤ
saya_b04_p03_012
「べろべろと舐めまわすでない、んあ…っ、はあ…
はあ、はあ…んちゅ…あ…」

押し倒され座布団に横たわるサヤ。キスを続ける主人公。

●SE：布団に横たわる

サヤ
saya_b04_p03_013
「はあ、はあ…わしも、身体が芯から火照ってきた
のじゃ…はあ、はあ…ん…ちゅちゅっ、ちゅっ
…ふ…ちゅふうっ…んっ、ちゅぷっ！」

サヤ
saya_b04_p03_014
「ちゅずっ…れる…れるおっ…んうゝ♪ おぬしの舌
が…はあ、はあ…きもちいい…っ」

◆位置・正面…主人公、身を起こしてサヤの足の間まで下がり、足を開く。さつきよりすこし離れた距離。

サヤ
saya_b04_p03_015
「あ……な、なにをする…？ そんなところ、あっ…
あっ……わしの、脚を…やめ、そのように開くでない、あっ…あ、見えちゃう…んう…濡れてる…おまんこ濡れてるの…見つかった…あう……」

サヤ
saya_b04_p03_016
「なんという罰当たりなやつなのじゃ…♪ 神の『そ
そ』を、さような目で見つめるなど…欲に溺れた眼
差しが…肌を焼くようじゃのう…んっ…ああっ…見
られているだけで、震えが走る…」

クンニ開始。

◆位置・正面上…主人公、サヤをクンニ。声は頭の上から聞こえてくるイメージ。

サヤ
saya_b04_p03_017
「あっ……あっ……舌が…！？ 熱い…おぬしの舌が
…とろけそうじゃ…ああ…ひう、んっ…あう、優しく
くてくすぐりたい…んう…はあ、はあ…んっ…あ…
あっ、あっ…んあっ…あっ…！ ふやあっ！？」

サヤ

saya_b04_p03_018
「ふわ、ああ……おぬしがっ…愛液を囓る音が…じゅるじゅると…っ、んあっ、は、恥ずかしくて…
はあ、はあ…こ、興奮するのじゃ…ああ……っ、んんっ…舌、あ、入って、くる…っ」

サヤ

saya_b04_p03_019
「あああああ…舌あ…入口に、さきっぱが…♪ 熱くて、ぬるぬるして…いやらしくうごめいておる…」

サヤ

saya_b04_p03_020
「…んっ、んうううっ…下腹の奥から、ぞわぞわと…
はあ、はあ…快感が…身体中に広がって…んあ、んっ…」

サヤ

saya_b04_p03_021
「あうっ、ああ…気が遠くなる……んうっ、あああ…
…はあ、はあ、はあ…っ、ああああっ…」

サヤ

saya_b04_p03_022
「はあ、はあ…おぬしよ……さように必死に舌を這わせて…美味しいのか…？」

サヤ

saya_b04_p03_023
「んうっ！ ああっ…一番敏感なさきっぱを吸われたら…ああっ、あっ、あっ…やうんっ！ はあ、はあ、はあっ…」

サヤ

saya_b04_p03_024
「だめ……気持ちよすぎて……あああっ、頭……ふわふわしてくる……っ、んあああっ…」

サヤ

saya_b04_p03_025
「らめ……っ、さきっぱだめ……っ、お豆さんそんなに吸われたらっ……ああああっ………」

サヤ	<p>saya_b04_p03_026 「ちゅうちゅうされたら、うやああっ、体じゅうぞわぞわして…ふあっ……怖いくらいに感じてしまうっ……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_027 「うんんっ……ああっ、あっ、あっ……ああああっ……！」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_028 「んゆうっ、らめっ……ひゃうっ！ かぶーって噛んじゃだめ、だめえっ……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_029 「あああっ、ふああああっ、舌先ちろちろ、舐めてる、舐めてるうっ、神経一番集まってるところっ、気持ちよくなるしかないところっ、だめっ、だめだめっ、あっ、あっあっ……！」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_030 「そんなにぺろぺろちゅぽちゅぽ、いじめられたらっ……！ あっ、あっ、あ！ あっ、あっ！ あっ——あゆううううううううっっっ！」</p>
絶頂するサヤ。	
サヤ	<p>saya_b04_p03_031 「——はっ、はっ、はあっ、はっ、はーっ、はーっ、あっ、あっ……」</p>
◆位置・正面…主人公、身を起こしてサヤの様子を見る。	
サヤ	<p>saya_b04_p03_032 「い、イかされちゃった……ぺろぺろされて、氣をやって……はあ、ああ……腹の底が……震えてるう……はあ、はあ……しゅきい……だっこしてえ……だっこお……」</p>
◆位置・正面至近…サヤを抱き上げ（対面座位の姿勢）顔を近づける	

サヤ saya_b04_p03_033
「んっ……♪ ギゅーって、そのまま……ギゅー……
……ふう……」

◆位置・正面耳元…抱き合って主人公の耳元でいやらしく囁くサヤ

サヤ saya_b04_p03_034
「ふう、はあ……おぬしよ……そなたのおちんぽも、
見事にいきり立っておるな…♪」

サヤ saya_b04_p03_035
「あ、あ、入り口探して、こっんこっんと……はう……
……くちゆくちゅ、淫猥な音が響いておる……わしのおまんこが……はしたなく涎を溢れさせて……」

サヤ saya_b04_p03_036
「入れるのか……？ もう入れるのか……？ あっ、
あっ……」

抱っこしたサヤに挿入する主人公。

サヤ saya_b04_p03_037
「んあっ、あっ……あああああ……！？ あ、
入って、くるうっ……おぬしのおちんぽ……
あああっ、あうううううっ……ひやううんっ
……」

サヤ saya_b04_p03_038
「はあ、はあ、あーっ、あっ……やあんっ……奥まで
刺さって……！ これ、しゅいよおっ……はあ
ううううっ、はあ、はあっ……」

サヤ saya_b04_p03_039
「抱っこした……まま奥まで入って、嬉しいのお……
……っ、お腹の奥まで、おぬしでいっぱいになってお
る……♪」

サヤ saya_b04_p03_040
「ぎゅーっしてしたまま、奥、ずんずん突き上げてほし
いのじゃ……はあ、はあ……あっ、あっ！ あっ、
きたあっ……♪」

サヤ saya_b04_p03_041
「ずん、ずん♪ ずんっ、ずんっ、ああっ……！
ひゃう、あっ、あうんっ……！ んっ、あっ、きや
うっ！」

サヤ saya_b04_p03_042
「ふあああっ、ふあっ、あうぐっ、深いっ……んあ、
あっ、あっ！ きもちいい……奥っ、届くたびっ…
意識がっ……飛ぶっ……」

サヤ saya_b04_p03_043
「んうっ、んっ、あっ、はっ……はっ、あっ、あっ…
…あ……あ……あううううううっ……」

サヤと舌を絡ませ合いながらピストン加速⇒射精する主人公。

◆位置・正面至近…キス距離

サヤ saya_b04_p03_044
「はふっ、ちゅうっ……んっ、んっ、んふっ……ふ
ちゅっ、んんっ、ちゅうっ、れろっ…」

サヤ saya_b04_p03_045
「ふわあ…舌吸われながら奥突かれるの、きもちいい
……もっとお……ちゅっ、じゅずっ、じゅちゅっ、
れろおっ」

サヤ saya_b04_p03_046
「……はああっ、はあっ、んくうっ、んっ、んああ…
おぬしの唾…美味しい…もっとなんっ、んっ……」

サヤ saya_b04_p03_047
「ふあ……んくっ、ちゅ……んふううっ、んあっ、ふ
わあっ……んんっ……んっ、ちゅっ…」

サヤ	<p>saya_b04_p03_048</p> <p>「ちゅ、あっ……イクのか…？ おぬし…んっ、ひゃうっ、はげしっ……んっ、ちゅっ、ちゅるっ、れろおっ…」</p>
サヤ	<p>◆補足：「んっ、んんんんんんんっ——……！」で主人公射精&サヤ絶頂</p> <p>saya_b04_p03_049</p> <p>「ちゅちゅっ、じゅるっ、チュツ、ふやうっ、んっ！あっ！ んっ、んっ、ちゅっ、んっ、んんんんんんんっ——……！ ンううう——……！」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_050</p> <p>「はあはあ……はあはあっ、はあはあ、はあっ……ちゅ…ちゅっ、はあ、れろっ、ちゅ…ちゅ、ちゅ…ちゅ、ちゅ……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_051</p> <p>「はあ、はあ……はあ……しゅい……ちゅーしたまま……中にびゅーびゅー出されてイクのお……きもちいよお……はあっ、はあっ……」</p> <p>一旦抜く主人公。だが、サヤから求めて2ラウンド目へ。</p>
	<p>◆位置・正面…抱きとめていたサヤを解放する主人公。サヤはお尻をむけて四つん這い</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_052</p> <p>「んっ……はあはあ、はあはあ……んっ……おぬしよお……もっと、ちょーらい……？」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_053</p> <p>「このままあ……狼らしく、四つん這いで……わんわんせつくす、したいのじゃ……♪」</p> <p>四つん這いのサヤに挿入する主人公。</p>
	<p>◆位置・正面下…サヤの腰を掴んで後ろから挿入。</p>

サヤ

saya_b04_p03_054
「ぶやああああっ……いきなりっ……きたああっ……♪
後ろから突き上げられてっ、いつもと違う場所に
当たるうっ、ごりごり擦って、きもちいいっ……♪
はあ、はああっ、あうんっ、あうんっ、あうう
んっ……」

サヤ

saya_b04_p03_055
「はあ、はあっ、はあっ……尻尾がふりふり、ゆらゆら
……止まらないのじゃ……おぬしのおちんぽ気持ちよす
ぎてっ……」

◆演技…サヤの喘ぎ声、以降犬っぽさも意識してください。

サヤ

saya_b04_p03_056
「あうんっ、あんっ、あんっ……ひゃんっ、あんっ……
……はあ、はあ……あっ、あっ、あんっ……」

サヤ

saya_b04_p03_057
「わしの華奢な腰を……さような逞しい腕でがっしり
掴んで……雄々しい腰つきが……わしの奥までっ、おち
んぽずんずんって……貫いてっ……」

サヤ

saya_b04_p03_058
「きもちいいっ……あううっ、ふううんっ、くう
んっ、くううんっ……はあ、はあっ、はあっ……」

サヤ

saya_b04_p03_059
「しゅきっ……しゅきっ、しゅきいっ、おちんぽしゅ
きっ、おくゴシゴシされるのしゅきっ、あんっ、あ
んっ、あうんっ、はううんっ……!」

サヤ

saya_b04_p03_060
「ううんっ、あうんっ! はあっ、はあっ、もっとな
……! もっといっぱい、ずこずこしてっ」

say_a_b04_p03_061
「サヤのおまんこいっぱいにしてっ。おぬしのおちんぽでいっぱい愛してほしいのおっ……！ はあ、はあ」

say_a_b04_p03_062
「きやうんっ、きやう、あんっ、あんっ……！ は、はっ、あっ、あっ……あうううっ、はあ、はあっ、はあっ……」

say_a_b04_p03_063
「あ、あ、あ……あううんっ……ふうっ、ふっ、ふうっ、ずるずるってひきずりだされるう……」

say_a_b04_p03_064
「はあ、はあ、おぬしのでっぱりが……お腹のうらっかわ「り」りするう……っ。んあ、あっ、あ……また、入って……くるっ、んううっ……」

say_a_b04_p03_065
「んっ、あああっ……届いてるっ……わしの子宮にちゅーしてるうっ、あううう、んうううっ！ はあ、はあ、はあっ……」

say_a_b04_p03_066
「子宮びくびくしてるのじゃっ……赤ちゃん汁が欲しくてお腹の底が熱いのおっ……」

say_a_b04_p03_067
「おぬしはもうりっぱな『おのこ』、一家のあるじになれる器じゃ。わしだけのあるじさま……♪」

say_a_b04_p03_068
「そのたくましいおちんぽから、生命力いっぱいの子種をびゅーびゅーと……わしの底に注いで、『ややこ』を孕ませてほしいのじゃあっ……♪」

サヤ saya_b04_p03_069
「わしらはもう夫婦じゃろう…？ 子宝を授かって、
ともに愛を注ぐ…？」

サヤ saya_b04_p03_070
「あっ、あっ…ふくらんでる…おちんぽ、おまんこの
なかでふくらんでるのおっ…♪ 射精したくてびく
びくしてる…おぬしのおちんぽびくびくしてる…」

サヤ saya_b04_p03_071
「いっばい気持ちよくなって♪ もっとわしを突き上
げて♪ 射精するために、いっばいいっぱい感じ
てえ…♪」

サヤ saya_b04_p03_072
「おぬしの精液、はやく、はやく…！ あっ、
あっ、ああっ、あうんっ！ 奥、んううっ、んあ
うっ！ くふっ、ふっ、ううっ……！」

サヤ saya_b04_p03_073
「ふやあうっ、あああっ…子宮ずんって…おぬし
のおちんぽ届いてる…っ、子種欲しくて疼いてるっ
……んうううっ、ふやあああうっ……！」

サヤ saya_b04_p03_074
「あっ、あっ…いくのじゃ、もううっ、イクっ、一緒
に…あっ、いくっ、いくっ、いくっ……！」

射精する主人公。サヤも同時に絶頂。

サヤ saya_b04_p03_075
「んやああううううああああああっっっ、イ
クうううううっ、はううううんっ………！」

サヤ saya_b04_p03_076
「はあっ、はあっ、はああっ………はあっ、なかあっ、
きてるっ、どくんどくんって、噴き出してるっ…
…」

サヤ	<p>saya_b04_p03_077</p> <p>「おぬしの子種が…わしの胎を満たしてる…なんと温かいのじゃ…はあ、はあ…わしは…とても幸せじゃ……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_078</p> <p>「はあ、はあ……よく、がんばったのう……おぬしよ…そういう頑張り屋さんところが、大好きじゃ…♪」</p> <p>しばし余韻を味わう二人。落ち着き、言葉を交わす。</p> <p>●SE：布団に横たわる</p>
	<p>◆位置・正面：並んで寝転んで。ロートーク</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_079</p> <p>「ふふふ…おぬしよ。まことに、立派になったのう…あれほど雄々しく、力強く、頼もしく抱かれてしまってはな…実感せずにはおれぬ…」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_080</p> <p>「ふう……気持ちよかったのじゃ……まだ身体中が、ぴりぴりと痺れるようじゃ……はふう……んん…。。すりすり…そうじゃ、もっとナデナデせい…♪」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_081</p> <p>「もふもふ、好きなんじやろう…？ ほれほれ、今宵は特別じゃ。尻尾も触ってよいぞ。……んふ、んっ……ん、ん……ふう……」</p>
サヤ	<p>saya_b04_p03_082</p> <p>「これからも毎日……わしはおぬしの世話をして…夜はこうして、伽に励もう。いずれまことに子も成して…幸せな家庭を築くのじゃ…一緒に、な…」</p>
サヤ	<p>◆位置・正面至近：キス距離。おでこをこっんとしてるイメージ。</p> <p>saya_b04_p03_083</p> <p>「——わしもまだまだ未熟な神じゃが……これからも末永く、甘えて良いのじゃぞ♪」</p>

